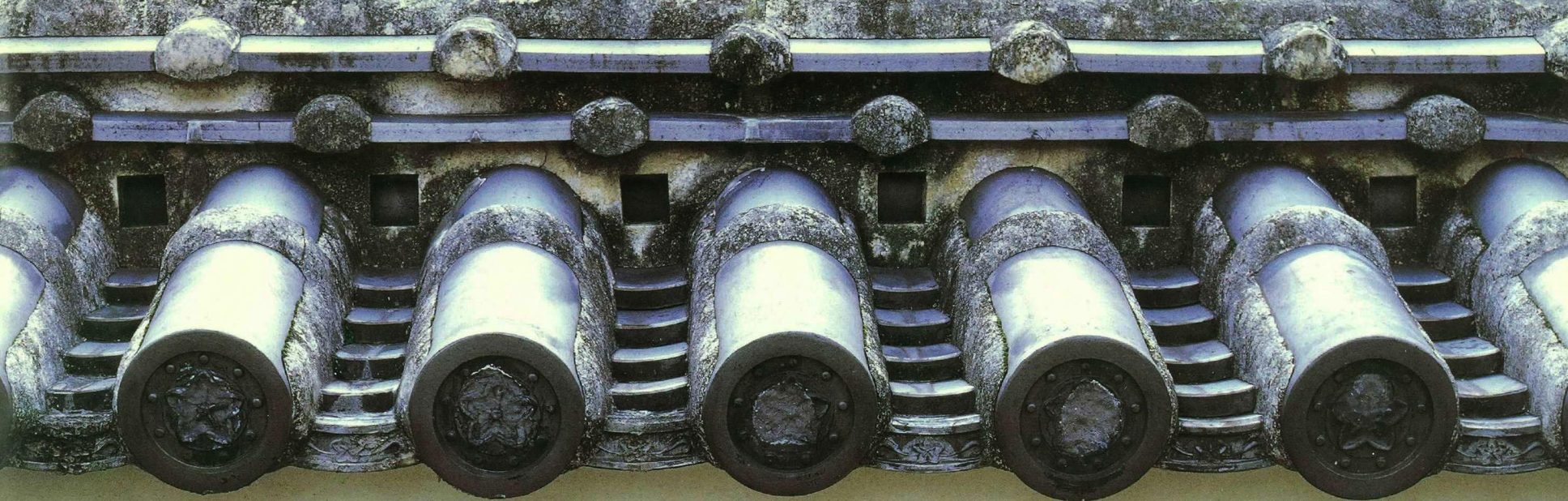


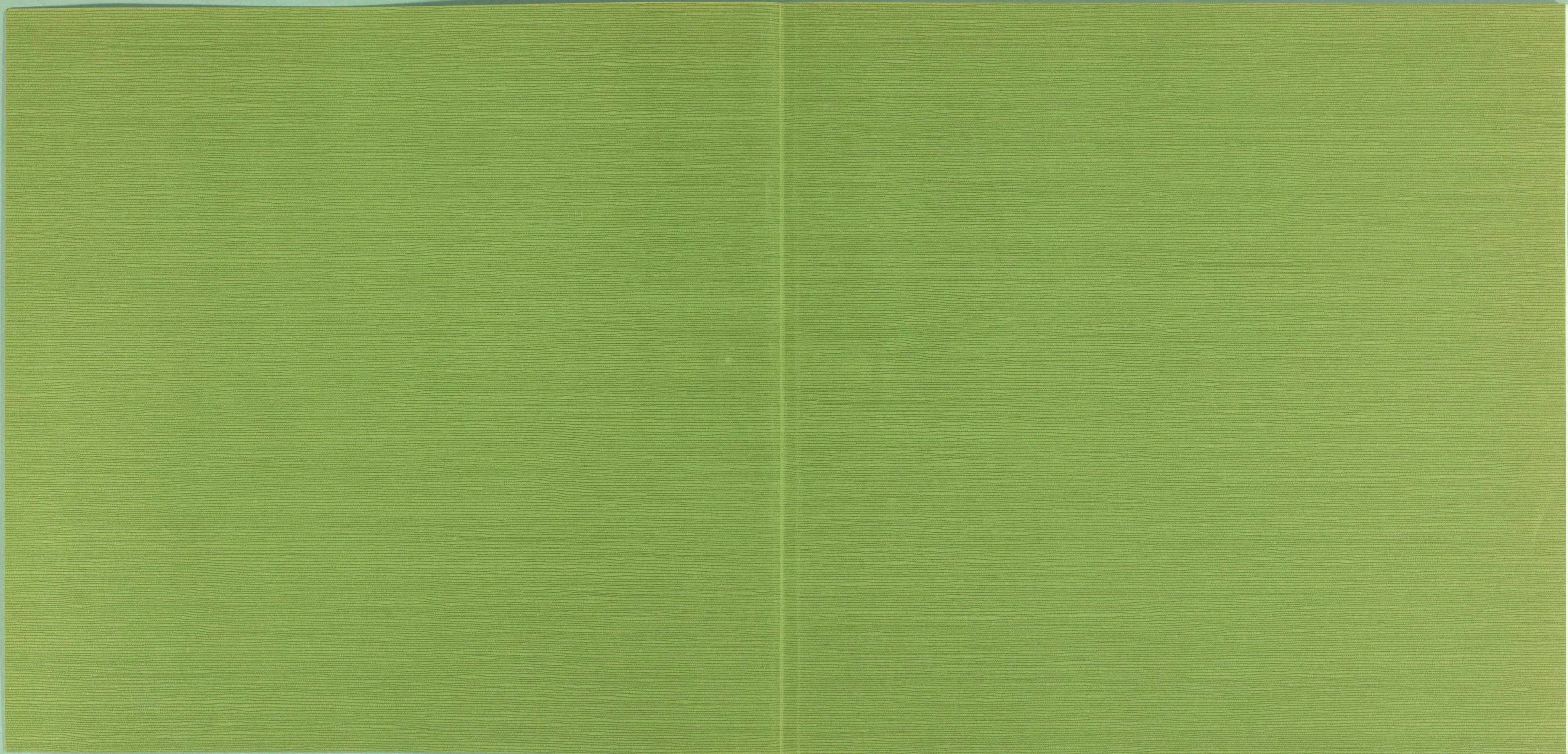


Happiness kumamoto

熊本市勢要覧

KUMAMOTO SHISEI YÔRAN

2000



2000

KUMAMOTO CITY
市勢要覧
CONTENTS

熊本市（市木・市花・市鳥）	1	社会保障	29	道路・駐車場	55
発刊にあたって	2	社会教育	30	基幹交通	56
熊本市歌	4	学校教育	31	市街地開発	57
地域と気象	5	学校施設	32	◎美しいものに感動できる「豊かな感性を育むまちづくり」	
人口	6	青少年の健全育成	33	歴史文化	61
熊本国体	8	創造的な人づくり	34	史跡・文化財	62
基本構想・しあわせ実感くまもと	10	消費者行政	35	都市景観	63
◎健康を実感できる「安全で健やかなまちづくり」		男女共同参画社会	36	市民文化	64
防災	12	国際交流	37	生活文化	65
消防・救急	13	市民主体のまちづくり	39	◇ ◇ ◇	
生活安全	14	◎仕事や活動をとおして「生きがいを感じるまちづくり」		行政	66
健康文化	15	中小企業	41	市議会	68
保健医療	16	魅力ある商店街	42	財政	70
良好な環境づくり	18	工業	43	広報・広聴	71
自然環境の保全	19	流通・情報拠点	44	名誉市民	72
廃棄物・リサイクルの推進	20	雇用福祉	45	熊本市のあゆみ	73
生活環境の維持・向上	22	観光・物産・コンベンション	46	市民のくらし	79
◎豊かな人間関係を保つ「心のかようまちづくり」		農林水産業	49	熊本市案内図	80
“人が輝くまち”	24	住宅	50	資料編	81
地域福祉	25	公園緑地	51		
高齢者福祉	26	上水道	52		
障害者福祉	27	下水道	53		
児童・母子福祉	28	市電・市バス	54		



熊本市章

ひらがなの「く」の字を
図案化したもので、市民の
調和を基とし、たくましく
発展する熊本市の姿を太い
円で示したものです。

HAPPINESS - KUMAMOTO

市木・市花・市鳥

市木・市花 昭和49年10月9日制定
市鳥 昭和59年5月22日制定

THE SYMBOL TREE IN KUMAMOTO

●市木 イチョウ(イチョウ科)

熊本市民には熊本城が銀
杏城といわれているように
なじみ深く、強健で樹齢が
長く、市街地の街路に多く
植栽され、独特な尖円錐形
の樹形をつくり春の緑陰、
秋の黄葉とその美しさでよ
く知られている。



THE SYMBOL FLOWER IN KUMAMOTO

●市花 肥後椿(ツバキ科)

江戸時代から細川藩の庇
護を受け、藩士をはじめ寺
社地の豪族等の愛好者によ
って広められ改良を重ねて、
清雅枯淡の味わいある銘花
となったといわれている。
肥後椿の特色は薄色の花弁
が主流でよく整った一重咲
きで、中心に金糸銀糸のよ
うな色鮮やかな太い雄しべ
が梅芯のように盛りあがる
ところにある。



THE SYMBOL BIRD IN KUMAMOTO

●市鳥 シジユウカラ(シジユウカラ科)

全長約14.5cmで、美しい
澄んだ声でさえずり、多量
の害虫を食べ、緑を守る益
鳥として市民に親しまれて
いる。金峰山や立田山、託
麻三山など森に多く生息し
白い胸に黒ネクタイ状の帯
が目立つ可愛い姿で、四季
を通じて観察される。

(写真は、東海大学出版会提供
フィールド図鑑より)



発刊にあたって

熊本市は、豊かな緑、清冽な地下水、勇壮な熊本城など、自然や歴史・文化に恵まれ、また、快適な都市機能も備わった「暮らしやすい都市」であることを最大の特性としながら今や、人口六十六万人を超える中核市として発展を続けております。しかし、近年、急速に進行する少子・高齢化、高度情報化、グローバル化、さらには、地球環境問題など、我が国を取り巻く社会情勢が大きく変化する中、地方分権や規制緩和など地方自治体のあり方も根本から問い直されています。社会のこのような大きな変化に対応するためには、より生活者の視点に立った暮らしに焦点をあてたまちづくりへの転換が緊急の課題となっております。

このような中で、私は、来る二十一世紀において最も大切なものは、「互いを思いやる心」「自然を愛でる豊かな感性」など、人本来のやさしさではないかと思っております。

そこで、本市では、「人にやさしく、地球にやさしい」を基本理念として、日々の暮らしの中で、このまちに生まれ、このまちに住む、そのしあわせを実感できる「よかひと、よかまち、よか暮らし」づくりを市民総参加で進めてまいります。

その重点的取り組みとして、

一つに、市民生活や人づくりの基盤となる、地域社会のあり方を重視した「自立と共生の地域づくり」

次に、まちの魅力や活力を創出するための、熊本の特色を最大限に生かした「人々が集う森の都づくり」

三つには、地球市民の責任として、豊かな自然環境を、次世代へと継承するための環境にやさしい社会への転換を図る「循環型の社会づくり」と、以上の三点を掲げ市政に邁進していく所存です。

この「二〇〇〇年市勢要覧」が、未来に向け大きく飛躍する熊本市の現状をご理解いただくための一助となれば幸いに存じます。

平成十二年三月

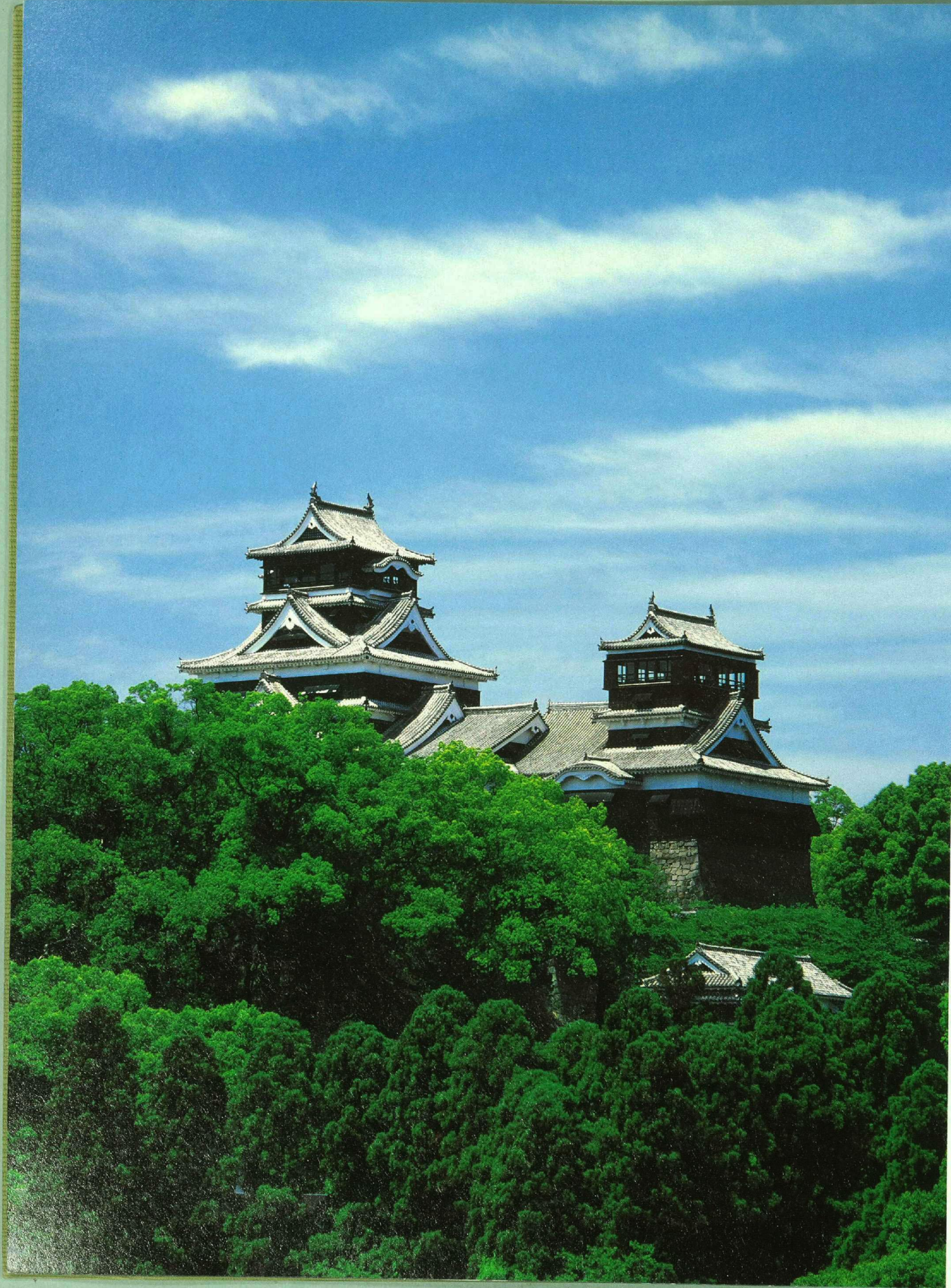
熊本市長

三角保之



人にやさしく、地球にやさしいまちづくり

HAPPINESS KUMAMOTO



熊本市歌 kumamoto city-song

東岡 正治作詞
鳥飼 哲夫作曲

1. 霊峰阿蘇を遥かに望み
水白川の流に治いて
天下に名だたる古城の都
われらの都 大熊本市
2. 常盤の緑 いらかを包み
森の都と世に謳われて
文運さかゆる平和の都
われらの都 大熊本市
3. 商工立市の営みしげく
いま新興の光に満ちて
生氣ぞあふるる文化の都
われらの都 大熊本市
4. 輝く進取の旗ひるがえし
西日本の最中に立ちて
いざいざ築かむ理想の都
われらの都 大熊本市

熊本市民愛市憲章

～品位ある市民の誇りのために～

都 市 宣 言

- 「森の都」都市宣言に関する決議
- 地下水保全都市宣言に関する決議
- 健康都市宣言
- 平和都市宣言
- 環境保全都市宣言
- スポーツ都市宣言に関する決議



REGION & PHENOMENA

地域と気象

本市は九州の中央、熊本県の西北部、東経130度42分・北緯32度48分の位置にあります。

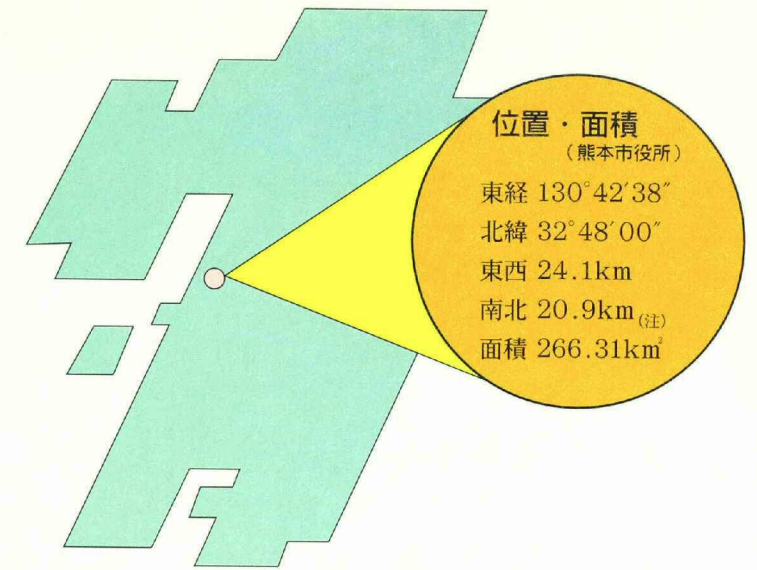
この位置と同緯度に近い都市としては、長崎市や中国の南京市があります。地勢は西北部から北部にかけて金峰山を主峰とする複式火山帯と、これに連なる立田山等の小火山の噴出物で覆われた台地からなり、東部は阿蘇外輪火山群によってできた丘陵地帯であり、

南部は阿蘇火山に源を発する白川の三角洲で形成された低平野からなっています。気候は緯度からいけば温暖な地帯にあるが有明海との間に金峰山系が連なるため、内陸盆地的気象条件となり、寒暖の較差が大きく冬から春への移り変わりは早く、夏は比較的長いことが多いようです。また、夏の夕方は「肥後の夕風」といって、蒸し暑いのが特徴です。

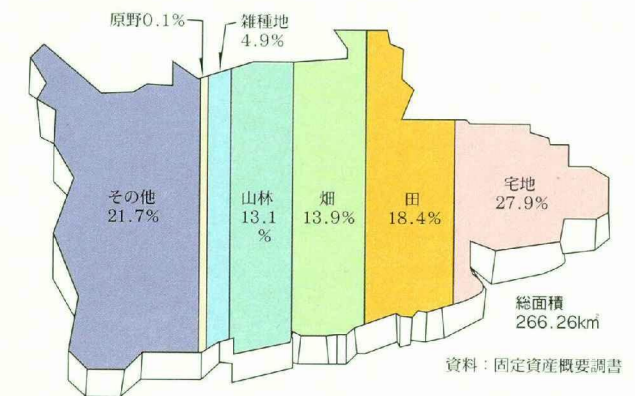
平成10年でみると、気温

は年平均18.2℃で最高気温は7月の35.8℃、最低気温が1月の-6.1℃となっています。

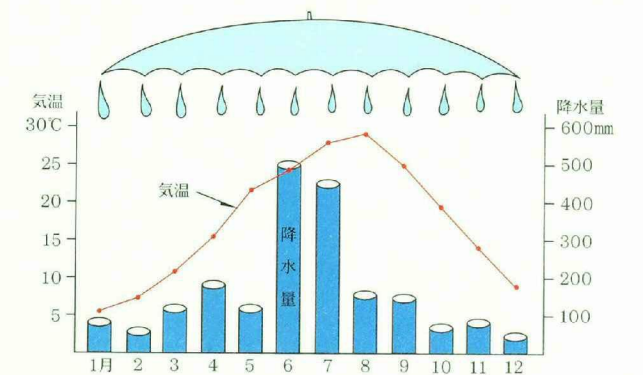
年間降水量は1,905mmと、過去3年（H7～9）の平均より97mm少なくなりました。また、風向きは春から夏にかけて南西の風が多く、秋から冬にかけては北北西の風に変わり、風速は1年を通じ1.9mとゆるやかな風となっています。



■地目別土地面積 (平成11年1月1日現在)



■気温と降水量の月別変化 (平成8年～平成10年平均)



(注) 面積については「平成10年全国都道府県市町村別面積調」建設省国土地理院発行による。

明治22年、市制施行当時42,725人（M.22.12.31現在）であった本市の人口は、その後、数回にわたる市域の拡大や都市機能の集積等に伴い増大し、昭和52年には50万人を越え、平成3年2月1日には、飽託郡4町と合併し、627,568人（224,219世帯）となり、岡山市を抜いて全国で15位となりました。また、近年の人口増加は年率1%前後で推移し、一世帯当たり人員は平成12年1月1日現在で、2.5人となっています。

また、平成7年と2年の国勢調査を比べると、23,614人、3.8%の増加で、昭和50年以降、増加数、伸び率ともに鈍化しています。

さらに年齢3区分別に構成比をみると、0～14歳の年少人口が17.2%、15～64歳の生産年齢人口が68.9%、65歳以上の老年人口が13.8%となっており、平成2年より、年少人口の割合が2.1ポイント低下したのに対し、老年人口が2.4ポイント上昇するなど、高齢化がさらに進行しています。

また、人口の地域分布では、平成7年の国勢調査結果でみると、およそ東部に19万8千人、北部に12万2千人、中央部に14万3千人、南部に11万1千人、西部に7万5千人となっています。この中で、中央部だけが人口の減少が続いています。

なお、人口分布の偏りを示す人口重心は、25年から一貫して東へ寄り続け、平成2年では、熊本高校運動場西側に移動し、平成7年には開進高度西門から北へ150mの地点へ移動し今まで東へ移動していた人口重心が旧飽託郡4町の編入により北西へ移動し、向きを変えました。

都市圏人口

熊本都市圏の人口は、平成11年10月1日現在787,733人（301,076世帯）で熊本県総人口の42.2%を占めており、人口増加率は、0.4%となっています。

都市圏人口は、昭和30年国勢調査以降、5年毎に熊本市は4万人前

後で増加していましたが、平成2年から平成7年までは2万4千人（3.8%）の増加となり、伸びが鈍化してきました。また、10町（現在は6町）の人口は、昭和45年までは減少し、昭和50年に増加に転じ、55年にピークとなり、増加率は20.5%の大幅な増加となっていました。

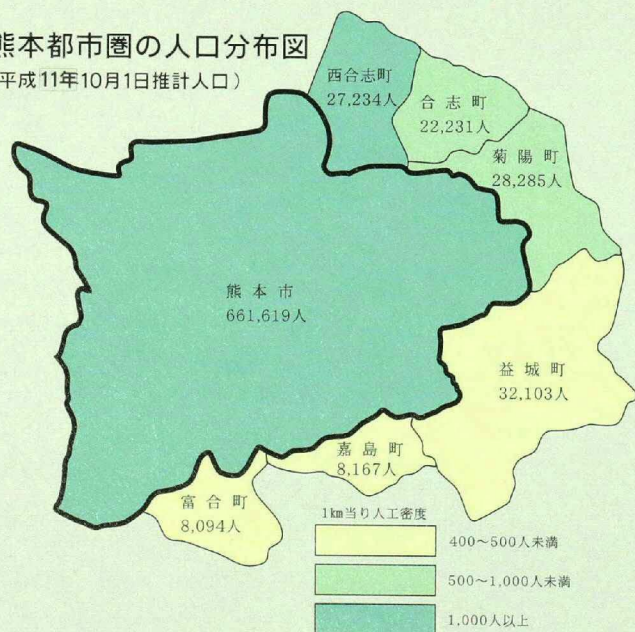
昭和45年から平成7年までの25年間の都市圏人口の増加数は約21万6千人となっています。現在、人口増加のピークは過ぎたものの年平均3千人から4千人の増加を続けています。

人

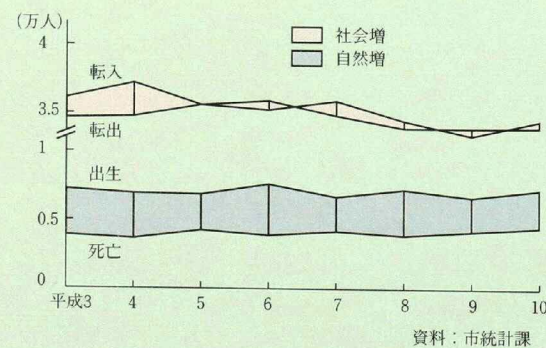


口

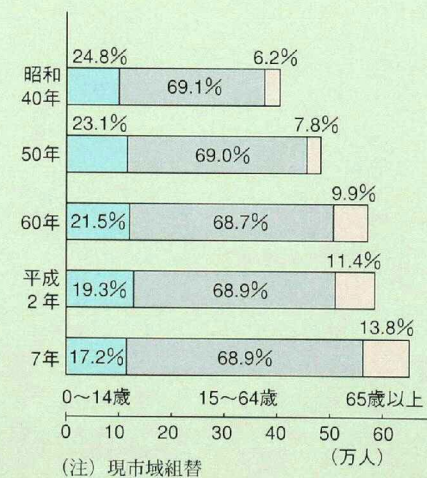
■熊本都市圏の人口分布図
（平成11年10月1日推計人口）



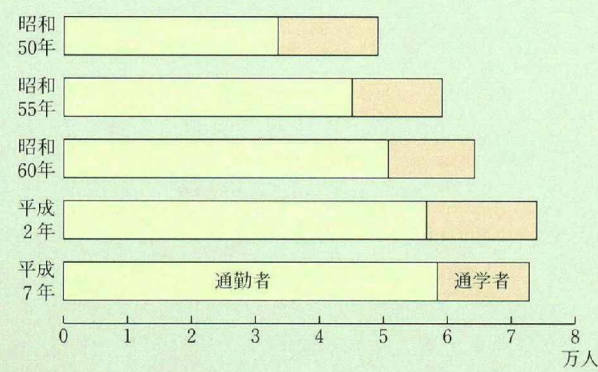
■人口動態の推移



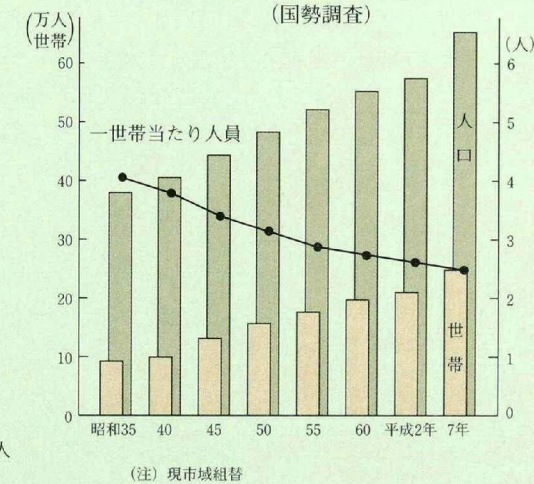
■人口の年齢（3区分）構成推移
（国勢調査）



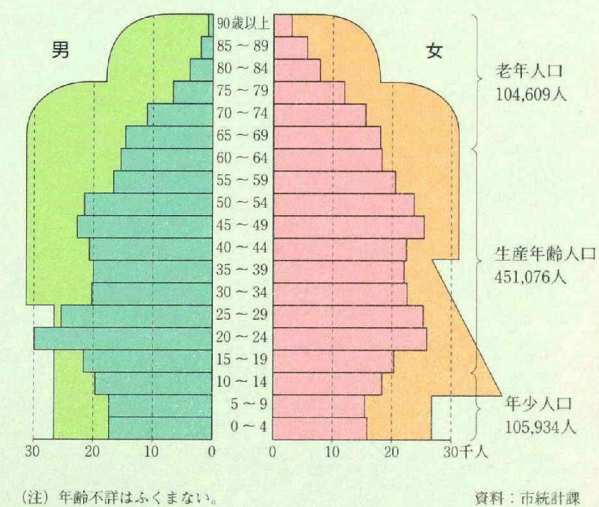
■流入人口の推移
（国勢調査）
（注）現市域組替



■人口・世帯数の推移
（国勢調査）



■年齢別人口構成（平成11年10月1日現在）





水泳
●競泳
●飛込
●シンクロサイズドスイミング
●水球



ボウリング
●全種別



陸上競技
●全種別



体操
●競技



バスケットボール
●少年男子
●少年女子



ソフトテニス
●全種別



kumamoto mirai kokutai
1999

夏季大会／平成11年9月11日(土)～14日(火)
秋季大会／平成11年10月23日(土)～28日(木)

本市で開催された第54回国民体育大会夏季大会・秋季大会は、10正式競技・2公開競技が行われ、選手・監督、大会関係者、観覧者を合わせ、合計316,862名の参加者があり、大いに盛り上がった。

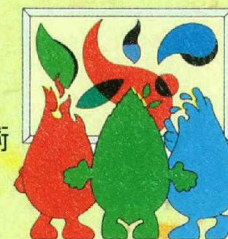


人、光る。

くまもと未来国体



スポーツ芸術
(公開競技)



自転車
●トラック・レース



ライフル射撃
●C.P



なぎなた
●全種別



高等学校野球
(公開競技)
●硬式



バレーボール
●少年男子
●少年女子



まちづくりの理念

まちの主役は私たち市民です。

その一人ひとりが、互いに人権を尊重し合い、最も身近な家族はもとより、生まれ育った地域社会や郷土、さらには、自然や人類への深い愛情を持ちながら、日々健康でいきいきと心豊かに暮らせることが市民生活の理想です。

また、一方では、かけがえのない地球環境を守り次代へ引き継ぐため、環境に負荷をかけない生活へと転換していくことが、今を生きる私たちの責務でもあります。

これからは、このような市民生活の実現に向けて、私たち一人ひとりが、自らの役割を自覚し、責任を果たしながら、まちづくりを進める必要があります。

そこで、本市では、「人にやさしく、地球にやさしい」を基本理念として、日々の暮らしの中で、このまちに生まれ、このまちに住む、そのしあわせを実感できる「よかひと、よかまち、よかくらし」づくりを、市民総参加で進めます。

めざすまちの姿

よかひと！
よかまち！
よかくらし！

しあわせ実感、
夢と活力の「生活首都」

しあわせ実感くまもと
Happiness-kumamoto
全ての市民が幸せであると感じられる都市の実現を目指して

♡健康を実感できる

安全で健やかなまちづくり

♡豊かな人間関係を保つ

心のかようまちづくり

♡仕事や活動をとおして

生きがいを感じるまちづくり

♡美しいものに感動できる

豊かな感性を育むまちづくり

安

♡健康を実感できる
全で健やかなまちづくり
Happiness-kumamoto

健康は人の幸せの基本。市民ひとりひとりが心身ともに充実感を感じられ、環境にやさしい、災害に強い都市を目指します。



しあわせ実感くまもと